

教育の理念

医療健康科学部は診療放射線技師を養成する学部である。仏教の教えと禅の精神に基づいた幅広い教養をもとに、医用放射線分野の基礎学力とその専門知識・技術、さらに、それらを応用する力、主体的かつ協調的なコミュニケーション力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力・問題解決力を身につける教育を行い、豊かな人間性をそなえて医療人としての強い責任感をもち医療技術の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学部の教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医療健康科学部は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部・学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、医療人としての強い責任感と豊かな人間性を有している。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

社会に関する幅広い知識と、専門分野である医用放射線分野における確かな基礎学力と専門知識・技術の知識を身につけ、他の医療スタッフや患者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な医療情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、ICT（情報通信技術）を活用し、問題を発見し問題解決に繋がるアイデアを出し、自ら行動することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文等の内容理解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他の医療スタッフと主体的に協働することができる。また、外国語（英語）の確かな運用能力を有している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

診療放射線技師を目指すものとしての、診療画像および医用放射線科学領域における専門分野の知識・技能・技術を習得し、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている			学習評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定 の方・学位授与	DP1	建学の理念を实践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○			◎				○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	○	○	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医療健康科学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた 5 つの能力を身につけるために、全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す「駒澤人育成基礎プログラム」を構築し、本学部・学科の専門教育科目とシームレスに接続させ、有機的に結びつけた 4 年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示す履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。また、専門分野で 4 年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につけるため、「基礎数学、基礎物理学、基礎化学、情報処理技術」等の基礎科目を開講する。さらに、モチベーションを上げるための、少人数・ゼミ形式で行われる「科学基礎論」を開講する。
- 3) 専門教育科目では、診療放射線技師資格取得のため、診療放射線技師学校養成所指定規則に基づいて基礎分野、専門基礎分野、専門分野の科目を専門科目として配置する。多様化する診療放射線科学分野の学問領域に対応するため、2 コース制を採用し、より各コースの専門性に特化した専門科目を体系的に配置し、先進性の高い教育内容を実現する。講義、演習、実験、実習、総合研究と多様な授業形態をとおして、基礎学力、応用力、問題解決能力を備えた医療人を育成する。専門科目として「医療宗教学」、「医療経済学」、「臨床医療人間学Ⅰ・Ⅱ」を配置し、幅広い視野をもった医療人を育成する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。

- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) e ラーニングシステム等の WEB システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 4) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

医療健康科学部では、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針に基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れて、学修成果の評価・測定を行うことを基本とする。学生個人が診療放射線技師に必要な基礎力と先進的な専門知識を備え、自ら考え行動できる医療人の素養を身に着けたことで判断するが、具体的には、GPA・成績分布状況、修得単位数、学生による授業アンケート、学修行動調査(学修時間等)、アセスメント・テスト(3年次)、医療人間学の単位取得率(3年次)、国家試験に相当する実力試験(4年次)、進級率等で評価する。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果 ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・入学前教育取組状況 (対象者のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・修得単位数 ・学生による授業アンケート ・学修行動調査(学修時間等) ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・進級率(年次) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時調査アンケート ・卒業生アンケート調査 ・資格試験合格率
科目レベル		<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・学修ポートフォリオ ・学生による授業アンケート 	

4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい	
全学共通科目 駒澤大学 人育成基礎プログラム	仏教と人間		4	1	◎					「仏教」および「禅」に関する基礎知識を習得させ、本学の建学の理念に対する理解を深めることを目的とする。	
	新生セミナー	新生セミナー	2	1	○	○		◎		「自立的」で「主体的」な大学での学修態度を身につけるため、①駒澤大学の大学生としての自覚を養う。②「学習」から「学修」へ学びを深化させる。③他者との交流を通じて自己を磨く。④変化する社会に自己を方向付ける。以上の4点を柱として、大学で学ぶことの意義について考えを深めることを目標とする。	
	キャリア教育	科学基礎論	1	1-2			◎			現代医療の状況とその論理を種々の専門分野に則して紹介しながら、少人数による体験と問題提起と討論を通して医療人としての姿勢を培う一助とする。	
	外国語科目	英語ⅠA A、英語ⅠA B、 英語ⅠB A、英語ⅠB B、 英語ⅡA A、英語ⅡA B、	6	1-2		◎		○		高校で学習したことを基礎にして、実用的な側面を包括的に扱う。段階的にレベルを上げていき、英語で自分の意志をより自由に伝えることができるようになることを目標とする。	
	ICT教育	情報処理技術	1	1			◎			大学生生活ならびに将来の業務に必要なICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。	
	人文・社会・自然・ ライフデザイン分野		2-4	1-4		◎				多面的な知識と深い教養を体系的に身につける。	
	保健体育科目	健康・スポーツ実習 保健理論	4	1		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
	リメディアル教育 科目	化学序論 数学序論 物理学序論A、物理学序論 B	4 選択 必修								入学直後の学生を対象とする授業であり、高校の物理・化学・数学から大学の物理・化学・数学へスムーズに学習できるためのリメディアル科目である。今後の学習のための物理面での基礎力を高めることを目的としている。
	導入教育科目	基礎化学Ⅰ、基礎化学Ⅱ 基礎数学A、基礎数学B 基礎物理学A、基礎物理学 B	6	1	○	○			○	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。	
専門教育科目	講義科目			1-4					◎	専門分野の知識を、体系的に身につける。	
	演習科目			1-4			○		◎	専門分野の知識を、演習を通して身につける。	
	実験科目	医用物理学実験 医用化学実験 診療画像技術学実験 電気電子工学実験 放射線機器工学実験 放射線管理学実験 画像工学実験	8	1-3			◎	○	◎	実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。レポートにまとめることにより、内容を理解し文章作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝える能力を身につける。	
	臨床医療人間学	臨床医療人間学Ⅰ 臨床医療人間学Ⅱ	2	3			◎	◎	◎	医療人としての心構え、および診療放射線技師としての患者接遇法並びにそれらの留意点を中心に、これらの業務が医療施設ではどのように実施されているか、医師および他医療技術職種との連携、業務分担について学ぶ。	
	基礎実習	画像検査技術学基礎実習 核医学検査技術学基礎実習	2	2-3			◎	○	◎	臨床実習前に、検査部位毎に体験実習を行い、実際の臨床の場で応用できる基礎能力を養う。また検査に伴う診断用撮影機器及び周辺機器の適正な使用方法を身につけ、最適な画像を得るための諸条件を工夫する能力をつける。	
	臨床実習	画像検査技術学実習 核医学検査技術学実習 放射線治療技術学実習	8	4			○	◎	◎	指定規則により診療放射線技師国家試験受験資格のために必須とされる臨床実習であり、放射線設備および指導者の充実した施設において実施される。	
	実用英語教育	技術英語 医学英語 医療放射線科学論文講読 医療画像科学論文講読	2	2-3				○	◎	医学分野で使用される疾患名や器官名の英語表現や診療放射線領域で用いられる撮影技術や放射線管理などに関する技術的な英語を習得するための授業である。	
総合研究（卒業論文・卒業研究）	医療放射線科学総合研究 医療画像科学総合研究	2	4			◎	◎	◎	4年次においてこれまでの学習成果を基に、医療分野における学生各自の興味のあるテーマについて、指導教員の助言を受けながら研究を行う。研究成果は論文に纏めると共に発表を行う。この過程を通じてテーマや課題の発想や設定の仕方、文献の集め方、解読調査、検討の仕方、テーマに沿ったまとめ方、結論の導き出し方や課題の引き出し方を学ぶ。		

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

医療健康科学部は、診療放射線技師を養成する学部である。診療放射線技師には医療人としての資質とともに、理工学的な基礎知識・学力が求められる。従って、大学では医学分野についてはもちろんのこと、放射線・放射能・画像のデジタル処理技術などさまざまな理工学的内容も学ぶ。このため、高校での数学、物理、化学の履修は極めて重要で、その基礎をしっかりと理解しておくことが必要である。この分野への強い関心、探究心をもった学生を求めている。

1. 医療健康科学部の求める学生像

- （AP1）高等学校の教育課程を幅広く修得し、本学部での学修に必要な基礎学力（特に、数学、物理、化学）を有している。〔知識、理解、技能〕
- （AP2）本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、医療健康科学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- （AP3）地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- （AP4）国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般入試	T方式	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。T方式とS方式は、マークセンス方式と記述式を併用して行う。試験は3教科で行う。 ①数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B)、 ②理科(T方式は物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から1科目、S方式は物理基礎・物理、化学基礎・化学から1科目) ③英語
	S方式	教科	◎				
大学入試センター試験 利用入試	前期	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。大学入試センター試験を受験し、学部が指定する科目の得点で選抜する。前期・中期の期間に出願する機会がある。
	中期	教科	◎				
自己推薦入試	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。出願資格を満たした受験生には、小論文による試験と、面接による口頭試問を行う。また、全体の評定平均値は3.5と比較的低い値を設定しているが、数学、物理、化学の履修状況を重視した出願条件を設けている。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
特別入試	スポーツ推薦入試 ※公募制ではありません	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。指定されたスポーツ競技で高い能力を持ち、かつ、競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、小論文による試験、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	○	○	○	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	社会人特別入試	出願書類	○	○			生涯学習の一環として、社会人に大学の門戸を開き、学内の活性化を図る。小論文による試験、数学、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		教科	○				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別入試	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた個性ある勉学意欲旺盛な学生を受け入れる。外国の高等学校に2年以上在学した受験生を対象とする。日本語(小論文)の試験、数学、面接による口頭試問を行う。
		筆記	○				
		教科	○				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	外国人留学生入試	出願書類	○	○			外国籍を有する者で、大学教育を受けることを目的とした受験生を対象とする。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。小論文、英語および面接による口頭試問が行われる。
日本留学試験(成績)		◎					
筆記		◎					
教科		◎					
編入学試験	出願書類	○	○			診療放射線技師養成に関わる短期大学を卒業した者や専修学校の専門課程を修了した者等を対象とする。専門に関する基礎知識、英語の筆記試験および面接による口頭試問を行う。	
	筆記	◎					
	教科	○					
	面接口試	○	◎	◎	◎		